徳島新聞　令和6年12月29日（日）

ロボット手術 止血円滑化へ器具

佐々木助教（徳大病院）最優秀賞

学会、安全で時短評価

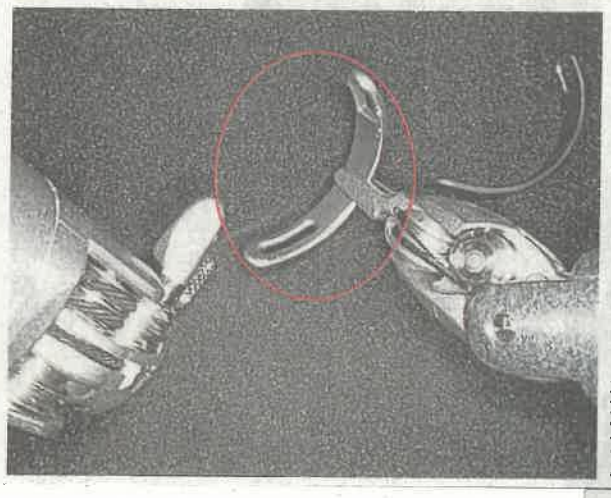
徳島大学病院泌尿器科の佐々木雄太郎助教(39)らがロボット手術用の器具を開発し、11月の日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会で最優秀の総会賞を受賞した。従来の手術よりも時間短縮を図れる点や、血管を傷つけない安全な手法が評価された。

開発したのはステンレス製で長さ2・6チセンのへら状の器具「ヴァスガイド」。ロボットアームでつかんで使用する。両端は、手術で血管を止血・縫合するのに必要な「血管テープ」を通すことができる形状となっている。

従来のロボット手術では、アームの先端で血管テープを直接つかんで通していたため、時間がかかる上に血管を傷つける恐れがあった。今回開発した機器を使えば止血・縫合する箇所にスムーズに血管テープを持っていくことができ、安全性も高まるとしている。

器具は2023年11月に徳島大病院で臨床使用を開始した。古川順也教授(49)の指導を受けながら改良を重ねて今年8月に市販化し、全国で25施設以上の医療機関が導入している。腎臓の摘出手術や部分切除手術で効果が確認されたという。

徳島大は特許と意匠登録を出願中。佐々木助教は「ロボット手術の安全で円滑な運用のため、現場で感じていた課題を改善しようとしたことが開発につながった。手術の質向上に向け創意工夫を続けたい」と話している。（奥村靖之）



【上】新医療機器を開発し、学会の最優秀賞を受賞した佐々木助教（右）。左は古川教授＝徳島大医学部【下】佐々木助教らが開発した器具（赤線で囲んだ部分）。ロボットアームでつかんで使用する（佐々木助教提供）